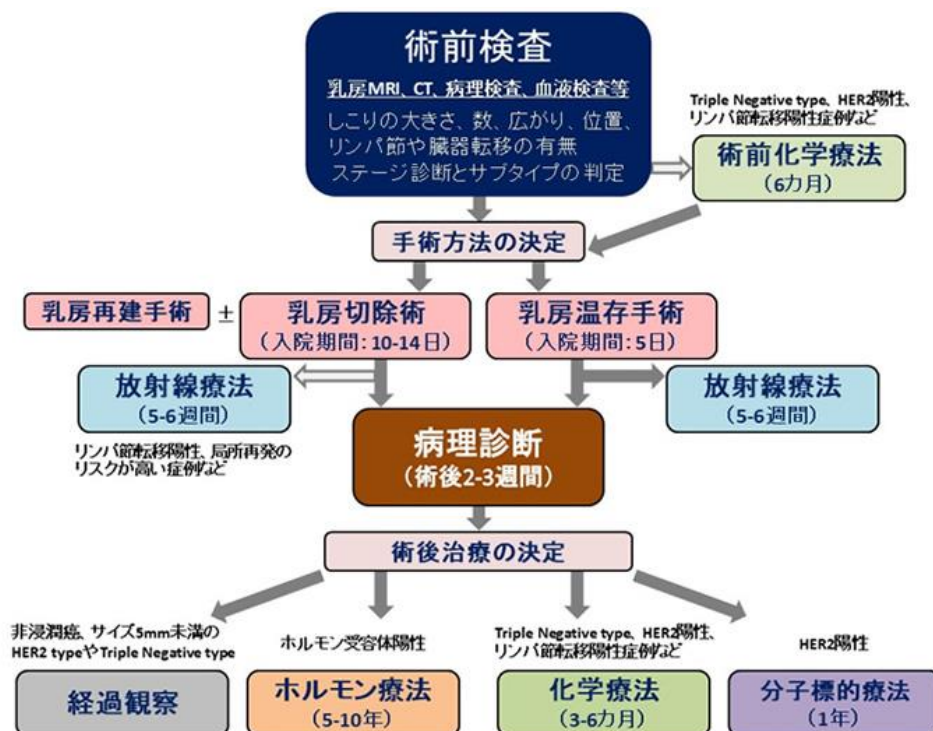


## 実際の乳がん初期治療の流れ

- 乳がんと診断されたら術前の検査を行います。
- 乳房 MRI でしこりの大きさや数、広がり、位置などを、全身の CT で腋窩（わき）のリンパ節転移や他臓器転移（遠隔転移）の有無を判断し、ステージ診断を行います。
- 病理検査でサブタイプの判定を行います。サブタイプは**ホルモン受容体**、**HER2 蛋白**、**増殖能（Ki-67）**によって、下のように5つに分類されます。

サブタイプ	ホルモン受容体	HER2 蛋白	増殖能 (Ki67)
ルミナル A type	あり	なし	低い
ルミナル B type	あり	なし	高い
ルミナル B-HER2 type	あり	あり	高い
HER2 type	なし	あり	
Triple Negative type	なし	なし	

- その他、血液検査や心電図検査、肺機能検査を行い全身麻酔の手術が可能かどうかを判断します。
- 他臓器転移がなければ基本的には手術を行います。Triple Negative type や HER2 陽性、リンパ節転移陽性症例などに対しては術前化学療法を行うこともあります。
- しこりの大きさや数、広がり、位置などから手術方法を決定します。



- 乳房温存手術では、基本的に術後に放射線療法が必要です。
- 月～金曜日まで毎日、5-6 週間の通院治療で放射線治療科が行います。
- 乳房切除術の場合は、リンパ節転移が陽性であったり、局所再発のリスクが高い症例に対してのみ放射線療法が適応となります。

- 術後 2-3 週間で手術の病理診断が確定しますので、その病理診断結果から術後再発予防の治療を決定します。
- 術後治療には経過観察、ホルモン療法、化学療法、分子標的療法があり、サブタイプと再発のリスクに応じて組み合わせて行うこともあります。